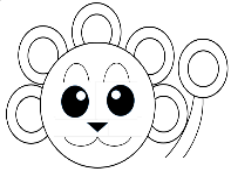
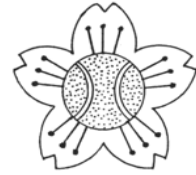


令和8年8月27日発行

横浜市立六浦小学校 学校だより



むつうら



本校教育目標:つながる なかま まち いきいき 六浦っ子
～持続可能な「花鳥風月」の学校づくり～

平和への思い

校長 内野 泰久

夏休みが終わり、日に焼けて一段とたくましくなった子どもたちが学校に戻ってきました。校舎には再び賑やかな声が響き、元気な日常が戻ってきたことを大変うれしく思います。

戦後 81 年となる今年の 8 月、例年 8 月は、6 日の広島原爆の日、9 日の長崎原爆の日、そして 15 日の終戦の日と、平和について改めて考える季節でもあります。先日、NHK で放映されたドラマ「手塚治虫の戦争」を視聴しました。手塚治虫氏は、自らの戦争体験をもとに、戦争の不条理や不戦への願い、そして命の尊厳をテーマにした作品を生み出しました。アメリカのディズニーをはじめとするアニメーション文化に深い敬意を抱きながらも、諸説はありますが、広島や長崎で多くの尊い命を奪った原子爆弾の悲劇を決して肯定できなかったのか「原子力」という言葉を、あえて平和と友愛の象徴である少年ロボット「鉄腕アトム」の主人公の名前に用いました。手塚氏は先の戦争について次のように語っています。「父は戦争にとられるし、勉強はできず、腹をすかせ、大勢の友人を失いました。…もう二度と、戦争なんか起こすまい、もう二度と、武器なんか持つまい、孫子の代までこの体験を伝えよう。」この言葉から、戦争を体験した人々がどれほど平和を願い、その思いを次の世代へつなげようとしていたのかが伝わってきます。

また、今年の広島原爆死没者慰霊式並びに平和記念式典では、小学生代表の二人が「平和の誓い」と題したメッセージを発表しました。その中で、「被爆体験を受け継ぐ最後の世代として平和のバトンをつなぐ使命がある」と訴え、身近なところから相手を思いやり、友達を大切にし、互いを認め合うことの大切さを語りました。そして、「平和はみんなで創り上げるもの」と力強く誓いました。私はその言葉に深く心を打たれました。平和は決して特別なものではなく、日常の中で人を思いやり、互いを尊重することから始まるのだと思います。私自身、一人の大人として、また教育に携わる者として、平和な社会を守るために何ができるのかを考え続けたいと思います。そして、子どもたちに命の大切さや人を思いやる心、平和や命の尊さをどのように伝えていくのか、その責任の重さを改めて感じています。